

解 答

1 (B)	2 (D)	3 (B)	4 (B)	5 (C)	6 (C)
7 (B)	8 (A)	9 (C)	10 (C)	11 (B)	12 (C)
13 (C)	14 (D)	15 (D)	16 (A)	17 (A)	18 (B)
19 (D)	20 (A)				

1. 「ミシェルは新聞を配るときに、町を走り回るのに自転車を使ったものだ」

▶ 選択肢はすべて『get+前置詞[副詞]』の句動詞であるが、すべて意味が異なるので、文脈に合うものを選ぶ方針で解く。空欄前のbicycle, 直後のtownから(B)get around「歩き回る,動き回る」が最適である。

[例] It's difficult in this town to get around without a car.

(この町では車がないと動き回るのは難しい)

get on 「(バス・馬などに)乗る」

get along 「(~と)うまくやっていく [with]」

get by 「何とかやっていく」

2. 「今週末は雨になるから、ニューヨークの町を旅行するのはやめにしよう」

▶ 選択肢はすべて『旅行』の意味を持つので、まずは語法の観点から検討する。

「(~) of + 場所」という形で使われるのは(D)tourのみであるので、これが正解である。他の選択肢で「~への旅行」という場合は, toを使う。

[例] The Russian ballet is making a tour of Western Europe.

(ロシアバレエ団が西ヨーロッパをツアー中だ)

He set out on a journey to Europe and America.

(彼はヨーロッパとアメリカへの旅行に出かけた)

3. 「カギがどこにも見つからないんだ。レジー、見なかった?」

▶ 空欄を含む文が否定文であることに着目する。not[又は他の否定語] ... anywhere 「どこにも~ない」という意味で, (B)anywhereが正解である。(A)nowhere「どこにも~ない」を入れる場合はnotが不要である。(C)somewhereは基本的に肯定文でしか使われないので不適。(D)everywhereを入れると「あらゆる場所で見つからなない」という意味になり不適である。

[例] I haven't seen them anywhere.

(彼らにはどこでも会ったことがない)

4. 「ソフィーにアレックスとの関係について話そうとしても無駄だよ。彼女はそのことについては話そうとしないから」

▶ 空欄の直後に目的語(the matter)があるので他動詞が入ると予想できる。しかし、選択肢はすべて他動詞であるので、文脈から選択肢を選ぶ。(A)consult「(専門家)に相談する」, (B)discuss「~を話し合う」, (C)speak「(言語)を話す」, (D)argue「~を主張する」の中で最適なものは(B)discussである。

5. 「ダッドリーは引き続き業績が良ければ昇進するだろうと言われたので、本気でベストを尽くそうと思っている」

▶ 直後に目的語があるので空欄には他動詞が入るが、選択肢はすべて他動詞である。目的語his bestに最適なものは, try one's best「全力を尽くす」という意味になる(C)tryである。

[例] She tried her best.

(彼女は全力を尽くした)

(A)attempt「~を試みる」はtryより堅い語で、目的語にone's bestは取らない。

(B)challengeは「~に異議を唱える/(人)に挑む」, (D)workは他動詞では「~を動かす」という意味である。

6. 「ビルは今朝、激しい首の痛みで目が覚め、頭を回すたびに痛む」

▶ 選択肢はすべて形容詞で、空欄直後のpain in his neck(首の痛み)を修飾するの

に相応しいものは、(C)severe「(天候・状況・病気・痛みなどが)厳しい、耐え難い」である。

その他は、(A)strict「(人・規律などに)厳しい」、(B)hard「(問題などが)困難な/熱心な」、(D)tough「骨の折れる/丈夫な」という意味である。

7. 「ジョージは財布を忘れたので、キャサリンから2000円借りた」

► 選択肢は意味の異なる動詞が並んでいるので、文脈から最適なものを選ぶ。
because以下で「財布を忘れた」とことと、空欄後のfrom Catherine「キャサリンから」という情報から、(B)borrowed「(2000円)を借りた」が正解である。

□borrow A (from B) 「(Bから)A(物・金)を(無料で)借りる」

You can borrow these books from the library for a week.

(これらの本は図書館から1週間借り出せます)

□lend A B 「A(人)にB(物・金)を貸す」 (= lend B to A)

My parents lent me the car to go to the movies.

(両親は私に映画に行くのに車を貸してくれた)

8. 「シンプソン教授は出席に関してとても厳しいことで知られている」

► 問題文は受動態で、Professor Simpson(シンプソン教授)という人が主語になっていることに着目すると、目的語に人を取らない(B)learned, (C)realizedは不適である。残る2つのうち文脈に合うのは(A)knownである。

また、(B)learn, (C)realize, (D)recognizeはto doを続ける語法を持たないことからも(A)が正解である。

□be known to do 「～すると知られている」

She was known to have left Turkey under a false name.

(彼女は偽名を使ってトルコを出発したことがわかつっていた)

9. 「タカシは就職活動についていくつか役立つ助言をしてくれた」

► 空欄前にuseful(有益な)、後にはabout job hunting(仕事探しについて)とあるので、(C)advice「助言」が最適である。その他の選択肢は、(A)opinion「意見、考え」、(B)suggestion「提案」、(D)recommendation「推薦、勧告」という意味である。

10. 「ルークはひどい風邪をひいている。医者にかかるべきだ」

► 空欄に続く目的語がa doctor(医者)であることに着目する。選択肢はすべて他動詞で、(A)check「～を検査する」、(B)inquire「～を尋ねる」、(C)consult「(専門家)に意見を求める/(医者)に診察してもらう」、(D)confirm「～を確認する」の中で文脈に合うものは(C)consultである。

[例] Consult your doctor about how much exercise you need.

(どのくらいの運動量が必要か医者に相談しなさい)

□inquire A of B 「A(物・事)をB(人)に尋ねる」

► askと違い、人を目的語にしない。inquire A Bとしない。

I inquired the way of a policeman.

(私は警官に道を聞いた)

11. 「台風が近づいてきているので、ビーチへ行く日を先に延ばさざるを得ない」

► 空欄の後はpostponeという動詞であることに着目する。have no choice but to doで「～するしか選択の道がない」という意味になる(B)but toが正解である。

(A)besides, (D)exceptは「～を除いて」という意味を持つが、前置詞なので不可。

(C)はother than toならば空欄に入れることができる。

[例] He had no choice but to speak out.

= He had no choice other than to speak out.

(彼は本音を言うより仕方がなかった)

□have no choice but to do「～するしか選択の道がない」

12. 「必ずマイクに直接話しかけてください。さもないと、プレゼンテーションが聴衆に聞こえません」

▶ 選択肢はすべて前置詞である。(A)speak on ~, (D)speak by ~という表現はないのでこれらは不可である。(B)speak for ~「～に賛成する/～を代表する」, (C)speak into ~「～に向かって話す」という意味であるが、文脈より(C)が最適である。前置詞intoの基本的な意味は「～の中へ」である。

speak into ~ 「～に向かって話す」

remember to do 「～することを覚えておく/忘れずに～する」

I remembered to fill out the application form.

(私はその申込用紙に記入するのを忘れなかった)

13. 「スーザンはお気に入りのテレビ番組を見たかったので、学校から走って帰った」

▶ 空欄前のhomeは副詞である。run home from+場所で「～から走って家に帰る」という意味であるので, (C)fromが正解である。

■副詞homeの用法

(1)動作動詞と共に用いる場合 「わが家へ[へ]/故郷に[へ]」

go home (家に帰る), get[come] home (帰宅する)

(2)状態動詞と共に用いる場合 「在宅して」

stay home all day (1日中家にいる)

I'll be home in a minute. (すぐに帰ってくるからね)

14. 「アンは通りでジョンとすれ違ったとき、知らん顔をした」

▶ 空欄前のpretendは不定詞のみを目的語に取る動詞なので, (D)not to seeが正解である。なお、不定詞を否定するnotやneverなどの副詞はtoの直前に置くことに注意する。

pretend to do 「～するふりをする」

The passenger pretended to be reading the newspaper.

(その乗客は新聞を読んでいるふりをした)

不定詞だけを目的語にとる動詞

<input type="checkbox"/> afford	「～する余裕がある」	<input type="checkbox"/> attempt	「～しようと試みる」
<input type="checkbox"/> decide	「～することに決める」	<input type="checkbox"/> expect	「～するつもりである」
<input type="checkbox"/> fail	「～しない/～できない」	<input type="checkbox"/> hope	「～したいと思う」
<input type="checkbox"/> learn	「～するようになる」	<input type="checkbox"/> manage	「なんとか～する」
<input type="checkbox"/> offer	「～することを申し出る」	<input type="checkbox"/> plan	「～する計画を立てる」
<input type="checkbox"/> pretend	「～するふりをする」	<input type="checkbox"/> promise	「～すると約束する」
<input type="checkbox"/> refuse	「～するのを断る」	<input type="checkbox"/> wish	「～したいと思う」

15. 「今までのところ、ロンドンへの修学旅行に申し込んだ者は2人しかいない」

▶ (A), (B), (C)は前置詞句であるので空欄後に続くonly two peopleと合わせて主語になることができない。副詞句である(D)so far「今までのところ」を選べば文脈的にも最適である。

so far 「今までのところ」 (= up to now/till now)

So far we have been quite successful.

(これまで非常にうまくいった)

other than ~ 「～以外の」

except for ~ 「～を除いて」

aside from ~ 「～は別として」 (= apart from)

16. 「クレジットカードの請求書について万が一ご質問がありましたら、遠慮せず担当者にご連絡ください」

▶ 選択肢はすべて助動詞で構文的に(A), (B), (C)は空欄に入れることが可能である。文頭に助動詞が入るにも関わらず、クエスチョンマークが無いこと、及び後半のdon't hesitate to contact ...が命令文になっていることから前半が条件節になっていると推測できる。(A)Shouldを選べば、ifを省略した仮定法となり、文脈的にも最適である。

■ shouldを用いた仮定法

基本形 If + S + **should do ~, S'** + 助動詞の現在形(過去形) + 原形...[命令文]

→ if節で使われるshouldは実現の可能性が低いという話し手の判断を表す。

If there **should be** an earthquake, this bookshelf would fall forward.

(もし地震が起こるようなことがあれば、この本棚は前に倒れるだろう)

ifの省略 ifを省略すると、後のSVは倒置され、疑問文と同じ語順になる。

Should there **be** an earthquake, this bookshelf would fall forward.

(もし地震が起こるようなことがあれば、この本棚は前に倒れるだろう)

17. 「地図を調べていなかったら、ハリーは道を間違ったことだろう」

- ▶ 前半のif節が仮定法過去完了であることに着目すると、空欄を含む帰結節にふさわしいのは(A)would have takenである。(B)might takeも帰結節として入れることが可能であるが、文意に合わない。

■ 仮定法過去完了の文の形

If + S + **動詞の過去完了形**, S + **would [could/might] + have + 過去分詞
助動詞の過去形**

She **would have died** if the climber **had not found** her.

(もしその登山者が彼女を見つけていなかったら、彼女は死んでいただろう)

18. 「ガブリエルは今週末に屋根の修繕を手伝うと言ってくれた」

- ▶ 選択肢には動詞offerの様々な形(原形/to不定詞/ing形/完了形不定詞)が並んでいる。他動詞offerはto不定詞だけを目的語にとるので、(A)help, (C)helpingは不可である。文末のthis weekend(今週末)より、これから先のことと表しているので(B)to helpが正解である。

□ offer to do 「～しようと申し出る」

His brother *offered to lend me a pair of skis.*

(彼の兄がスキーを貸してくれると言った)

19. 「ハワイでの休暇中に、私たちはたくさんのクジラを見た」

- ▶ 空欄直前の副詞quite「かなり」に結びついて「かなり多くの」という意味を表すのは、(D)a fewである。(A)はa number of, (C)はa lot of, となっていれば正解である。quite several, quite someという言い方はできないので、(B)severalは不可である。

□ quite a few 「かなり多くの」 (= many/not a few)

My friend has *quite a few* interesting books.

(私の友達はたくさんの面白い本を持っている)

20. 「後から雨が降るといけないので、私の傘をお持ちください」

- ▶ 直後にSVを含む節(it rains)が続いているので、空欄には接続詞が入ると推測できる。選択肢の中で接続詞は(A)in case～「万一～の場合には」のみで、文意にも合うのでこれが正解である。

□ in case S + V 「～するといけないから/～の場合に備えて」

In case I miss the train, don't wait to start.

(私が列車に乗り遅れた場合は待たずに出発してください)

You must take your sweater *in case* it should snow.

(雪になるといけないからセーターを持って行きなさい)

□ in case of A 「Aに備えて」

□ in the case of A 「Aの件について言えば」